

あいち環境学習プラザについて

愛知県環境調査センター

相羽 富美江

1 はじめに

愛知県では、環境学習事業の拠点機能を担う施設として、2007年に愛知県環境調査センター内に「あいち環境学習プラザ」を開設した。

2011年に愛知県東大手庁舎に移転したが、2020年4月1日に、PFI事業による建て替えを終えた環境調査センターに再移転し、新たな環境学習施設として生まれ変わった。

本報では、新たに整備した「あいち環境学習プラザ」の展示及び環境学習プログラムの内容について紹介するとともに、業務内容及び2020年度の実施状況について報告する。

2 あいち環境学習プラザ

2.1 設置の背景

愛知県環境調査センターは、本県の環境行政を科学的・技術的に支える調査・研究機関として1970年に開設された¹⁾。2002年度からは、それまで環境調査センターで培ってきた環境調査結果のデータや分析技術等を活かす形で、環境学習プログラムの開発や、環境学習講座の開催及び施設見学の受け入れ、小中学校等への出前授業などを実施してきた。そして、2007年2月に、環境学習の実践の場として培ったノウハウを活かすため、「あいち環境学習プラザ」を環境調査センター内に開設した。

2011年4月には、利便性の向上と更なる機能強化を図るため、愛知県東大手庁舎に「あいち環境学習プラザ」を移転し、環境学習講座の実施等に加え、多様な主体との連携・協働を促すコーディネーターの活用など、各種事業を展開してきた。

一方、環境調査センターは、建築から40年以上が経過し、老朽化が見られたことから、2016年からPFI方式による建て替えを開始した。新しい環境調査センターは、「環境首都あいち」にふさわしい全国モデルとなる新エネ・省エネ施設とするため、公共施設で全国トップクラスとなるZEB(Nearly ZEB)^{*1}を目指すとともに、「県民に親しみをもってもらえる施設」となるよう整備を進めた¹⁾。

新しい環境調査センターの施設を有効活用し、環境調査センターの業務等の紹介を通じて、県民の環境に対する理解を一層深めてもらうとともに、「持続可能な社会を支える「行動する人づくり」」を推進するため、2020年4月1日、環境調査センターの全面供用開始に併せて「あいち環境学習プラザ」を環境調査センター1階に移転オープンした。

2.2 施設概要

県民に親しみをもってもらえるよう、各所に県産の木材を使用し、温かみを感じられる施設となっている。展示スペース(282㎡)と実習・研修室(93㎡)からなり、

「環境技術」と「環境学習」で育む、未来のあいちの人づくり」をコンセプトに、様々な新エネ・省エネ技術を導入した環境調査センターで、環境技術を知り、環境問題と私たちとのつながりを学び、未来に向けて行動できる人づくりを推進している。

展示スペースは、①インフォメーション・エリア、②「世界から学ぶ」エリア、③「愛知から学ぶ」エリア、④「日常から学ぶ」エリアの4エリアから構成されている(図1)。各エリアにおいて、「地球温暖化」、「水・空気」、「生物多様性」、「ごみ・資源」の4テーマごとに、パネル展示、ハンズオン(体験)、映像、タブレットといった、見て、聴いて、触って考えることのできる遊びの要素を取り入れたコンテンツを導入している(図2)¹⁾。



図1 あいち環境学習プラザ エリアマップ



図2 展示・映像等施設

*1 ZEB(ゼブ) …Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の略称で、年間で消費する建築物のエネルギー量を大幅に削減するとともに創エネでエネルギー収支「ゼロ」を目指した建築物。環境調査センターでは、2種類の太陽光発電、全館LED照明、人の熱を検知して照明や換気を自動制御する次世代人検知センサ等を導入している。

展示等には、地球温暖化などの各テーマをイメージした親しみやすいキャラクターを随所に配し、子どもたちが環境について楽しく学べる空間となっている。なお、キャラクターのイメージと連動した「あいち環境学習プラザ」のロゴマークもリニューアルオープンに併せて新たに作成した。

実習・研修室は、最大40人収容でき、実験を交えた参加体験型の環境学習講座などを行っている。



図3 あいち環境学習プラザロゴ・キャラクター

3 事業内容及び2020年度の実施状況

3.1 人づくりの推進

3.1.1 社会見学に対応した環境学習の実施

新たに整備した展示等と、環境調査センターのZEB施設を支える新エネ・省エネ設備や、環境分析現場等の施設の特徴を最大限に活かしたストーリー性のある環境学習を実施している。

ストーリーは、地球を、地球温暖化を始めとする様々な環境問題に苦しんでいる患者に見立て、見学者が地球を救う「地球ドクター」へと成長していく内容である。

会議室におけるオリエンテーション及び導入映像「地球SOS」の視聴後、展示スペース及び2階から4階の環境分析現場の見学と、実習・研修室で工作や実験などを行う班に分かれて交互に学習を行う。学習後、再び会議室に集合し、ふり返り映像「今日から地球ドクター」の視聴後、タブレットに「エコアクション宣言」を入力することで、地球ドクターに認定されるという見学の流れとなっている。所要時間は120分程度である。

展示スペース及び2階から4階の環境分析現場の見学は、タブレット等による遊びの要素を取り入れた学習を提供している。実習・研修室においては、2020年度から本格実施された小学校の新学習指導要領に対応した環境学習講座を提供している。講座は、各学年の学習単元にも対応しており、工作や実験など、参加体験型の内容で、環境に配慮した行動を促すプログラムとなっている。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月13日から5月17日までの期間、見学の一般利用及び団体受入れを中止したが、感染拡大防止対策を徹底した上で再開し、48団体計1,432人が施設見学に来館され、うち14団体計898人が環境学習講座を受講した。

3.1.2 夏休み等における環境学習講座の実施

夏休み、冬休み等の小中学校等の長期休暇期間中に、公募型の親子向けの環境学習講座を2007年度から実施している。外部講師が講座内容を企画することにより、幅広い分野の環境について学んでいただくことができる。2020年度は、17種類の講座を14日間で延べ28回開催し、計315人が参加した。

3.1.3 あいちecoティーチャーによる派遣講座の実施

各世代に応じた環境学習を推進するため、2018年度に中高年・シニア世代の環境学習講師「あいちecoティーチャー」28名を養成し、2019年度から小学校や環境学習施設等に派遣している。

講座は、ごみや水に関する5つのプログラムから成る。2020年度は、11の小中学校等に派遣し、計1,008人の小中学生等に対し講座を実施した。

3.2 環境学習コーディネーター

県民、企業、NPO、行政、学校等が連携・協働した環境学習を実施できるよう、環境学習を受けたい方と、環境学習を提供できる方の橋渡し役を担う「環境学習コーディネーター」を、2013年度から配置している。「環境学習コーディネーター」は、環境学習の内容や実施方法、講師、教材、活動場所、環境学習施設など、環境学習の実施についての相談を受けるとともに、必要に応じ関係者の調整を行っている。多くの方に活用いただけるよう、コーディネーターの実績はホームページ等で公開している。

3.3 ウェブサイトによる情報発信

県民一人一人に日常生活の中で行う地球にやさしい行動「エコアクション」に取り組んでいただくため、あいち環境学習プラザのホームページ等で、エコアクション推進のための情報の発信・交流を行っている。

4 まとめ

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、「あいち環境学習プラザ」はリニューアルオープン後間もなく見学等の一般利用や団体受入れの中止等各種事業の中止を余儀なくされた。しかし、再開後は、コロナ禍にも関わらず、多くの方に来館いただき、また、あいちecoティーチャーによる派遣講座も、2021年度は事業開始3年目にして2019年度の倍以上の申込みがあり、多くの県民の方の環境に対する意識を深め、行動につなげる一助となったと思われる。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示物の定期的な消毒や、環境学習講座実施時の物品等の消毒、マスクの着用、手指のアルコール消毒の徹底等、でき得る限りの感染症拡大防止対策を講じたことで、多くの方に安心して利用いただくことができたと感じている。これも、来館者を始め、学校等の先生、講師、職員等関係する方々の御協力によるものであり、お礼申し上げる。

今後も引き続き多くの方に来館いただけるよう、また、リピーターとして何度も来たいと思われるような施設となるよう、各種事業に取り組むとともに、関係機関等を通じて周知啓発に努めていきたい。

参考文献

- 1) 愛知県環境局：環境白書、令和2年版